

ラウンドテーブル 8月27日(水)

ラウンドテーブル(6)

16:20~18:30 16号館407教室

教育の社会実験とチャータースクール

企画者：高野 良一 (法政大学)

提案者：高野 良一 (法政大学)

趣旨の説明

竹内 延彦 (教育改革リサーチ研究所)

教育特区政策の到達段階

天野 一哉 (ジャーナリスト)

市民による教育実験の現場を歩いて

小玉 重夫 (お茶の水女子大学)

報告を聞いて

〈趣旨〉

チャータースクールについて議論する第3回目のフォーラムである。これまで「チャータースクールの理論と実態」、「チャータースクールの多様性と可能性」と題して、チャータースクールを多面的かつ内在的に取り上げてきた。今回は、日本の教育改革とチャータースクールの接点を探りたい。昨年来、教育特区が政策立案され、実施に移されつつある。最近の教育特区の政策メニューには、公設民営の学校設置もあげられている。こうしたなかで、日本版チャータースクールを実現させようとする民間の動きもある。いったい、教育特区とはなにか、民間の社会実験やチャータースクールに特区はふさわしい「器」なのか、市民の教育実験の現場を踏まえて検証したい。